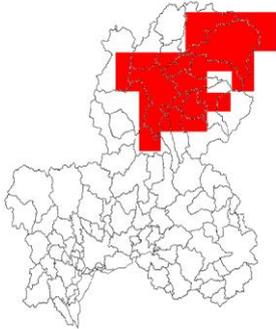


エゾヌカボ	<i>Agrostis scabra</i> Willd.	情報不足
		イネ科
選定理由	もともと生育地が少ないうえに、草地環境が減少するなど生育環境が悪化している。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	稈は直立し、高さ40-80cm。葉身は長さ3-10cm、幅1-2mm。花序は大きく、長さ15-40cm。花序の枝は開出し、上方にのみ小穂をつける。包穎は明らかに不同長。護穎は芒はない。	
生態的特徴	イネ科の多年草。花期は5-7月。低山帯から亜高山帯の明るい草地や林縁に生育する。隣接する長野県においては、それほど貴重な種ではないようだが、本種の生育適地である草地環境は減少している。	
分布状況	北海道から本州中部以北に分布し、北アメリカ、カムチャッカから中国北部に分布する。岐阜県では、県北部のみに見られる。	
減少要因	草地環境が減少していることが減少の要因。花が地味であるため、存在自体が認識されないまま、森林の伐採や林道の改修、スキー場やゴルフ場の造成などによって自生地が失われている可能性がある。	
保全対策	草地環境の維持などの保全。道路拡張やスキー場の造成などによる環境の改変は本種の保全に大きな脅威となる。	
特記事項		
参考文献	原色日本植物図鑑・草本編Ⅲ 保育社 1964 日本の野生植物草本Ⅰ 単子葉類 平凡社 1982 増補日本イネ科植物図譜 平凡社 1993	

文責:福岡義洋